

令和 5 年 2 月 7 日
2022 年度（令和 4 年度）学校評価アンケートについて
教頭 新田幸二

（１） 生徒・保護者アンケート 生徒 96%、保護者 67% 回収

総じて 3 年生の回収が悪く、アンケートも辛口の評価となっている。

設問 1) 1・2 年の生徒は高評価であるが、3 年生については入学時「敬天愛人講座」もできず、講話を持つ機会が少なかったことなどによるかもしれない。

設問 2) HP については、必要な連絡事項は掲載されていますが、古いページが更新されずに残っているものがあり、各部署でまめに整理していく必要がある。

設問 3) 特進コース・進学コース共に文理それぞれの特色を出せるように工夫してカリキュラム編成をしており、特に新課程においては教科情報を一年生で学び、共通テスト対策として 3 年文系でも数学や地学を履修できるように編成した。

設問 4) 設問内容が保護者には実感しづらい内容であり、評価が低い、生徒には教員団の創意工夫が伝わっており、身についてきていると実感しているのだと思われる。

設問 5) 「生徒の能動的に学習活動を作り上げようとする」教師側の意図が、生徒に伝わり、浸透してきていると考える。反面「教えてくれない」という不満も抱えることになる。

設問 6) 「総合的探究の時間」は手探りの中、市内のいろいろな団体に協力をお願いし、5 年前にはじまった。また、本年度からは敬愛大学をはじめとする大学生や卒業生にチューターとして授業に参加していただき、アドバイスをうけながら進め

ている。お仕着せでなく生徒自ら考え、討論し、発表する活動を通じて素晴らしい成果となっており、その成果を生徒自身が実感できているのだと思われる。特に 3 年生に顕著である。

設問 7) 家庭学習については総じて低調である。生徒はある程度学習をしていると考えているが、保護者にはそれほど勉強しているとは思われていない。まして教員側に至っては・・・

設問 8) 進路の栞はずっと作っていなかったが、2 年前から他校のものを参考にしながらいいところ取りで製作した。卒業生からの体験談など内容も充実しているが、LHR などの時間が限られているため、十分に使えていない現状がある。非常にもったいない。

設問 9) SHR や LHR そして個別面談等を通して指導している。3 年の一学期はそのような指導も不十分なままに受験期に突入してしまうことに要因がある。2 年後半から栞を活用した進路指導が求められる。保護者は一定の満足感をもって受け入れていると思われる。

設問 10、11) 頭髪服装、交通ルールなど各委員会を通じて啓発活動を行っており、生徒・保護者にも十分に受け入れられていると思われる。

設問 12) 「いじめ」に発展しそうな事案については早期に把握し、未然に防止することができている。特にネットやメールの絡んだ事案には注意深く対処している。

設問 13) 保護者にとっては 1 年生の頃は敷居が高いが、学年が進むとともに相談せざるを得ないということでしょうか。スクールカウンセラーの利用件数が比較的多い

設問 14) 現 2・3 年生では長期・短期ともに海外留学は実現できなかった。一方、スロバキアやタイから 2 名の長期留学生を

受け入れ、生徒同士の交流も生まれ、生徒の海外への関心は非常に高くなっていると思われる。

設問 1 5) 学校行事、部活動はやっと制限も緩み大会なども本格的に再開されている。華々しいメジャーな運動部はもちろんだが、文化部も含めて 66.0%の生徒が部活動に参加し活動している。2 年生に至っては 80%の加入率である。

設問 1 6) 学習環境については建物が古いこともあるが、大学校舎の建築工事が進行中であることが大きい。今後、新館工事の進行に際し、十分な防音対策を行なうように要望していく。

設問 1 7) コロナ対策として各室への消毒薬の配付、教室へのサーキュレーター・二酸化炭素感知器の配備、手洗い場の増設等行い、換気の励行も有り、教室での感染は抑えられている。

設問 1 8、1 9) クラッシーを用いた情報発信を心がけ、生徒・保護者への情報発信が行なわれている。また、保護者からの欠席連絡にも使われ、毎朝のチェックも容易になっている。クラッシーの難点としては使えば便利な反面、使わない保護者には全く伝わらないことである。

設問 2 0) 3 年生を除き、充実した高校生活を送れていると良好な回答を得た。現 3 年生は行事が少なく、修学旅行も実施できなかったことが影響しているのかもしれない。

(2) 教員 アンケート

概ね、意欲的に指導に当たっている様子が見て取ることができる。

生徒の家庭学習については教員が期待している程には生徒は家庭学習に取り組んでいない。生徒アンケートでは「やっているよ」との回答でも教員側からすると「まだまだ勉強した内に入らない」ということか。

施設設備については古いことはともかく、校舎内の段差やエレベーターがないなど新校舎に向けて解消すべき問題が多数ある。採光や「まぶしすぎる」等の問題もあり、一部遮光カーテンを導入したが、まだまだ十分とは言えない。工夫が必要と思われる。

災害時の対応については、災害があっても「安全に十分注意して出勤」を基本としているのでその不満が出ているのかと思われる、

総じてほとんどの職員が、「充実した教員生活を送れている」と回答していることは嬉しい限りで、学校発展の原動力となっている。

(3) 授業評価アンケートについて

3年生の全授業で行なった。回収率 70%

Google form を用いて実施し、70%の回収率であった。

「とてもそう思う」「どちらかというと思う」を加えた割合を集計してみた。

(1) 教科・科目への興味関心	82%
(2) 授業への取り組み	90%
(3) 家庭学習	61%
(4) 内容理解	86%
(5) 考査ごとの振り返り	73%
(6) 授業が楽しい	84%
(7) 目標設定の浸透度	90%
(8) 教員の発声の聞き取りやすさ	92%
(9) 板書プリント等の整理、わかりやすさ	90%
(10) ICT 機器の利用	79%
(11) 考えさせる授業	89%
(12) 表現力、実技の育成	83%
(13) 発表の場	80%
(14) 授業の難易度	78%
(15) 授業の進度	91%
(16) 質問への回答	95%
(17) クラス全体の取り組み	86%
(18) 力がついたと思う	89%
(19) 学習意欲 が高まった。	86%

余りにも高い割合になっており、教員への優しい心遣いから、肯定的な回答をしてくれたとも思われる。

少し割り引いて考えるにしても生徒も積極的に授業に取り組み、先生方も良く準備をして授業に臨んでいることが想像される。

わかりやすく、考え、発表させる授業が展開しようという教員側の意図が生徒に良く浸透していると思われる。また、授業が一部の優秀な生徒だけを相手にしているのではなく、多くの生徒が「楽しい」と感じクラス全体を巻き込んだ授業ができており、もっと勉強したいと思う気持ちを醸成できている。と読みとることができる。素晴らしい結果である。今後に期待したい。